

# インドネシア金融市場の動向

ご参考資料 2015年5月7日

4月のインドネシアの金融市場は、弱い企業決算や同国経済の先行き懸念などから、株式・債券ともに下落しました。通貨ルピアも年初来で見ると弱含んでいます。インドネシアの金融市場の現状と今後の見通しについてご説明します。

## 株式市況

4月のインドネシア株式市場は前月末比で7.8%下落しました。終値ベースで7日に史上最高値を更新した後は利益確定の売りに押され下落に転じ、27日には低調な1-3月期の企業決算内容やインドネシア経済減速への懸念などを背景に前日比で3.5%安と急落しました。

## 債券市況

4月下旬以降、債券市場は弱含みで推移(利回りは上昇)しています。4月末は、国債入札を控え需給環境の悪化から売りが優勢となったことや株式市場の大幅安を嫌気して大きく売られる展開となりました。さらに5月に入り、4月の消費者物価指数(CPI)上昇率が2か月連続で加速したことや1-3月期の実質国内総生産(GDP)成長率が鈍化したことを受けて大幅な下落となりました。

## 為替市況

好調な貿易収支を背景に4月半ばまで穏やかな上昇を続けていたインドネシアルピアは、4月の下旬以降下落傾向となっています。月末のドル需要に加え、株式、債券市場で外国人投資家による資金流出が見られたことから対米ドル、対円ともに弱含みとなっています。

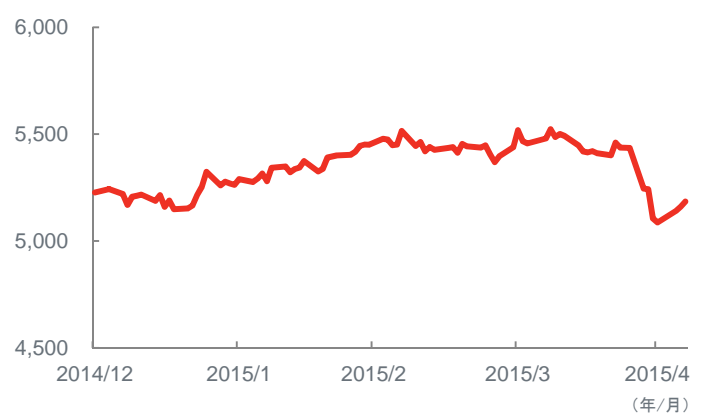
## 1-3月期のGDP成長率は2009年以來の低水準

5月5日に発表された1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+4.71%となり、2014年10-12月期の同+5.01%から鈍化し、2009年以來の低水準となりました。商品価格の下落による家計所得の減少や金融政策の引締めにより民間消費の低迷がみられたほか、2月に可決された補正予算に盛り込まれたインフラ計画などへの財政支出の遅れなどが要因と考えられます。

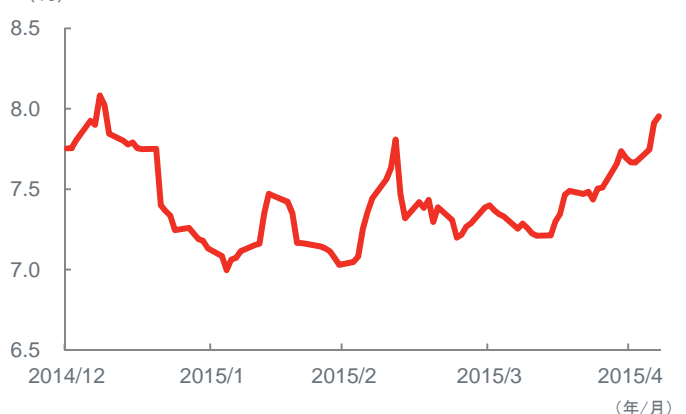
## 今後の見通し

短期的にはインドネシアの株式、債券、通貨が弱含む可能性もありますが、政府による今後の改革の進展状況や米国の金融政策の動向などを注視する必要があるとみています。1-3月期の成長率の減速については一時的な落込みとみており、インドネシア経済の中長期的な見通しについては引続き良好だと考えています。また、2015年後半にはインフラ開発プロジェクトの推進や更なる金融緩和策などにより、インドネシア経済は回復に向かうと思われれます。特に、財政の大きな部分を占めていた燃料補助金を大幅に削減したことで、インフラ開発に向けた支出の余地が生まれたことは、インドネシアの中長期的な成長に寄与するものと期待されています。金融政策については、年内の利下げを予想していますが、時期については米国の金融政策次第と考えています。

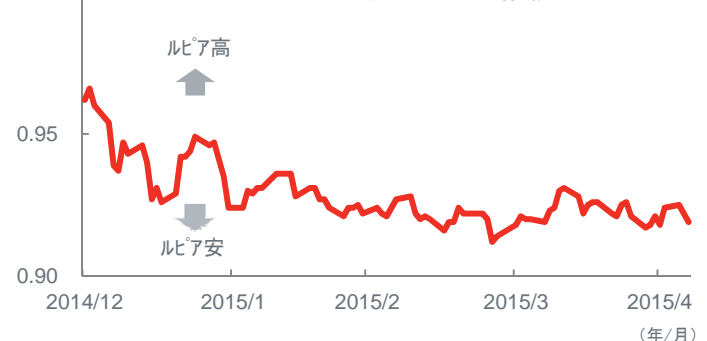
(ポイント) ジャカルタ総合指数の推移



(%) インドネシア10年国債利回りの推移



(円) インドネシアルピアの対円レートの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
期間: 2014年12月末~2015年5月6日。  
インドネシアルピアの対円レートは100ルピア当たりの推移。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会